

アイクスグループ創業40年を迎えるに当たって

昭和45年7月、それまで、15年勤めた税務署を退職し、静岡の地で税理士事務所を開業して今年満40年を迎えます。思い起こすと、つい先日のような気がします。現有50名程の社員の半数以上が、開業以後に生まれている事を知ると、これは大変なことだと、その歴史の重さを実感します。企業生命30年、と言う説がありますから、その点からも、まあ、よく続いたなあ、と言う気がしないわけでもありません。

そんな訳で少し過去を振り返ってみますと、まず、顧問先ですが、開業当初は5件ぐらいだったでしょうか。私は福井の出身ですから静岡には親戚も学校時代の友人もおりませんでしたからそちらの関係からのお客さんは全くありませんでした。税務署勤務時代、私は特に誘致活動はしませんでしたからこの客数は仕方のないところだったと思います。それから1年の間に10件ぐらいは増えたと思いますが、その当時のお客さんは、今は殆ど残っておりません。長く続けることの大変さを改めて痛感致します。

事務所は3回変わっています。最初は、水落町、今の江上皮膚科医院の横で住宅兼事務所でした。事務所部分が3坪程、家内と二人で始め一年ぐらいて、男女1名ずつ入社し4名となりました。なんせ、座っている人の後ろを人が通るのがやつの状況でした。3年後の昭和48年、城東町に移転しました。今の自宅で、住宅兼事務所でした。1階が事務所、2、3階が住宅だったのですが、昭和63年の次の移転時には、3階も事務所化していました。スタッフも、この移転時には17~18名になっていたと思います。

この間の、昭和52年2月、今、社長の小長谷が入社してきました。彼の入社に関しては、ユニークなエピソードがありますが、これは、またの機会に紹介しましょう。

昭和59年1月、(株)アイ経営指研を設立しました。昭和62年夏、現在の本館を新築移転、平成15年1月、会計事務所を個人経営から法人経営に切り替え、アイクス税理士法人を設立しました。平成15年秋には、新館を増築、現在に至っています。その後、平成17年10月、タックスハウス静岡中央店を設置し、平成18年、アイクス社会保険労務士法人を設立、平成18年4月、タックスハウスの2号店を静岡マイホームセンターに出店し、平成19年10月には、中国は蘇州に合弁会社を設立しました。

そして、この40年間に、何人の人が入社し、また去って行ったことでしょうか。120人、いや150人を超えるかもしれません。

コンピュータシステムは、昭和50年に、TKCコンピュータシステムを導入しました、この時期、会計事務所がコンピュータシステムを導入するのはまだ走りでした。名刺に「コンピュータ会計事務所」と名打って先鋭的な気分だったものです。平成4年、NMCの、キャッシュレーダーシステムを導入しました。これは、初の通信システムの利用で画期的なものでした。しかし、原因不明の通信障害のトラブルが頻発し、精神的にも経営的にも大変苦しい時期を迎える事になりました。40年の会計事務所経営の中で私が最も心を痛めた時期であります。

その後、平成16年、JDLシステムに変更し、以後、財務会計システム等の変遷を得て、現在に至りますが、会計事務所に於けるITシステムの導入は、誠に重大な決断となります。金銭的に大きな投資になるだけでなく、システムの選択は、将来を予測し、お客さまをも巻き込んだ戦略的な経営判断が求められるからであります。

提携企業では、コンピューターシステムに関しては、TKC計算センター、NMC、JDL等、異業種交流会に関しては、LCA、事業承継に関しては、4S、医療経営に関しては、MMPG（メディカルマネジメントプランニンググループ）、M&A（企業の買収と譲渡）に関しては、日本M&Aセンター、資産税対策に関しては、アックスコンサルタント、その他、日興証券、大同生命、興和損保、アクサ生命、INA生命、損保ジャパン、ひまわり生命、等が思い出されます。振り返りますに、私の物好き人好きの性格が如実に出ている感が致します。

次に、事業の承継ですが、私は、平成2年54歳の年、全社員とその家族及び提携企業先の集まる第2次中期5カ年経営計画発表会の席で、私は5年後の59歳になった時、社長を辞任する旨を発表しました。ところが、その時点では、後継者を誰にするか決めていたわけではありませんでした。その後5年間に、会社の中から後継者にふさわしい人物が現われなかったら他の会計事務所からヘッドハンティングしてくれば良い、いや、ヘッドハンティングは、必ずしも会計事務所に限る事はないし、もし、それも出来ないならば、会計事務所のM&Aもあるだろうと考えていました。

ところが、その翌年、その時、専務だった今の小長谷を後継者にしてもよいと思えてきたのであります。そして、その翌年の経営計画発表会の席でその旨を発表し実際予告通り59歳の平成7年には、社長を譲り私は会長になりました。そして、今年には会長になって15年になります。

会長になって感ずることは2つ、その1つは、会長は、当然のことながら社長にとって誠に重要な存在なのであります。大切なことは、会長は社長が思い切りその力を発揮出来るよう全面的にバックアップすることです。決して、牽制役になったり、2つの派閥を作ってはならないことです。また、社長の適切なアドバイザーとして、情報の収集に努め、スピーディーで感度良い判断力を維持するためにも健康な体力を保持することです。

いま1つは、会長業って、なかなか良いものだ、と言うことです。社長は実践する人、会長は任せる人、任せるってやってみると楽しいものです。

ところで、中小企業の会長に必要な資質、それは、いくつかの要素があると思いますが最も重要な資質、それは、『我慢』であります。「覆水盆に返らず」と言う諺があります。我慢して見ていると成程と思えることがあるのです。

さて、このようにして、これまで40年間もの間、無事事業を続けてこられたのは、お客様をはじめ多くの方達から厚いご支援を頂いたお陰であります。お世話頂いた方達に今後どのようにして報いるか、それが大きな課題であります。今後、経営環境が益々厳しくなることが考えられる中、中小企業にとって会計事務所の存在は誠に重要になってきます。税務に関するこ

とは勿論のこと、経営に関すること、事業承継に関すること、相続に関すること、労務に関すること、等多面にわたるテーマに適切に対処するには、それなりの人材と規模が求められます。それは、これまでに蓄積してきた、当グループのノウハウを活かし、更には、資質をアップして、お客様の期待に応える事でありませう。私達グループの経営理念は、「最高に信頼される相談相手となる」であります。この原点に立ち返って、お客様に一旦緩急あつて相談を持ちかけられた時、それに応えられる力を兼ね備えていなければならないと痛感致しております。その意味で、私どもの今後の在り方が誠に重要であります。

さて、私は、過去40年を振り返りましたので今後のことにつきましては、いまして、社長の小長谷の方からお話しさせていただきます。

お客様を始め提携先様、そして、スタッフの皆さん本当に長い間有難うございました。

心から厚く御礼申し上げます。今後も宜しくお願い致します。

合掌

平成22年1月吉日

アイクス税理士法人代表 飯田 昭夫